

全校生徒で盛り上がった “学校祭 体育の部”

緊急事態宣言が解除され、10月19日、学校祭体育の部を無事に実施することができました。半日に縮小しての開催ではありましたが、競技に全力で挑み、一生懸命に仲間を応援する姿で溢れる全校生徒で盛り上げた素晴らしい取組となりました。昨年度から始まった「団体競技 縦割りダンス発表」では、3年生を中心とした練習の成果が披露されました。統率された動きや、ユーモアのある振付け等、観客を引き付けるダンスが繰り広げられ、学年を超えた縦のつながりが紡がれました。学年ごとの競技では横のつながりが紡がれ、この行事を通して学校としての強い絆が紡がれたようです。今年度初めての三学年が揃った取組でしたが、学校というものの良さを実感できる行事になりました。保護者の皆様には、体育の部当日、参観者を各家庭1名に限定する感染予防対策に、ご理解とご協力いただきありがとうございました。

コロナ禍により学校の存在意義が再確認されました。日々の授業での仲間との協働的な学び、学校行事等での目標に向かって仲間と協力することの学び。どちらにも仲間の存在があります。互いの個性を認め合い、長所を生かし短所を補うことによって大きな力が生まれることを、学校では学ぶことができます。そのために、学校は、より良い授業を行い、学校行事を効果的に行う必要があります。学校は、社会で生き抜く力を身につけ、人生を豊かにする多様な人との学びの場でありたいと思います。

色別縦割りダンス



1年：台風の目



2年：ジャンケンリレー



3年：綱引き



学校祭 文化の部<ステージ発表>



10月25日、学校祭文化の部のステージ発表が映像視聴の形式で行われました。オープニングは生徒会本部より“そでふれ”的演舞と書道パフォーマンスが披露され、その後、吹奏楽部、コンピュータ部の発表と続きました。ビブリバトル（知的書評合戦）では学年代表生徒がお薦めの本を紹介し、最後は5組の有志の発表（剣舞・バンド・ラップ歌唱・スケボー・楽器演奏）が披露されました。学校での姿とは違う一面に、観ている生徒は釘づけになっていました。いろいろな特技を持つ生徒が活躍し、とても楽しい時間となりました。芸術の秋にふさわしく、たくさんのArtを満喫することができました。

<今後の主な予定>

11月13日（土） 授業研究報告会（午前中授業） *11月15日（月） 代休日

11月16日（火） ⑤⑥限 全学年：総合的な学習（ASTタイム）ポスター発表会 *保護者参観可

11月24日（水）～26日（金） 定期テストⅢ

12月15日（水）～21日（火） 1・2年：個人懇談会 3年：進路懇談会

12月24日（金） 志 姿の式（授業終了日）

12月25日（土）～1月5日（水） 冬休み *1月6日（木） 授業開始



令和3年度 全国学力・学習調査結果分析（5/27に3年生が受験しました。）

国語も数学も全国平均を上回る好成績でした。ただ国語は、全体的にあまり差ができていませんでしたが、数学は中央値を境に、分布がやや2極化を示していました。

○正答率が50%を下回った設問（国語）

- (1) 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題（正答率 28.7%）
- (2) 文脈の中における語句の意味を理解する問題（正答率 42.7%）
- (3) 文中に表れている見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題（正答率 31.1%）
- (4) 相手や場に応じて敬語を適切に使う力（正答率 44.5%）

夏目漱石の「吾輩は猫である」からの問題において、明治の文豪の文章の文脈を十分に理解できなかったようです。「呼吸をのみこんだ」は「コツをつかんだ」の意味で使われていましたが、「発言をひかえた」と答えた人が多かったです。

「行く」を「いらっしゃる」などに直すことはできいても、それが尊敬語なのか謙譲語なのか、正しく答えられなかった人も多かったようです。

○正答率が50%を下回った設問（数学）

- (1) 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する問題（正答率 36.6%）
- (2) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題（正答率 35.4%）
- (3) 相対度数の必要性と意味を説明する問題（正答率 42.1%）
- (4) データの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現で説明する問題（正答率 14.0%）
- (5) ある条件下で、常に成り立つ図形の性質を、数学的に表現する問題（正答率 40.2%）

全体の傾向として、物事の性質や傾向を的確に読み取ったり、数学的に解釈をしたりしたうえで、それを数学的に表現する力が試された問題で、正答率が低くなりました。

特に、数学的な表現を求められた記述問題では「無解答率」（答えずに白紙で出した人の割合）が高い傾向も見られました。



○生徒質問紙から見える下京中学校生徒の特徴

- ・コロナ禍で、不安を抱えていた生徒がたくさんいました。
- ・学校に楽しく通っている生徒が80%を超えていました。

- ・授業や学級活動の中で、自分の意見を述べ、話合い活動に積極的に参加できています。
- ・自分と違う仲間の意見を聞くの楽しいと思っています。



コロナ禍は生徒の生活にも影響を与え、不安や心配につながったようです。その中で、学校に楽しく通っている生徒が多いことにホッとしています。

違いを認め合い、互いに思いや考えを伝えられる友人関係が構築されているようです。また、授業において、他者の異なる意見を尊重しながら、自身の意見もしっかりと伝える相互応答的な関係が育まれています。

- ・将来は人の役に立ちたいと考えています。
 - ・人と協力することの大切さをよくわかっています。
-
- ・平日かなり長時間ゲームをしているせいか、本を読む時間はあまり多くありません。
 - ・新聞を読むことがほとんどなく、身の回りの地域や社会に目を向けることが課題です。

他者や社会への貢献意欲が高い傾向がはっきり出ています。今の気持ちを忘れず、社会で活躍できる人に成長してほしいと思います。



平日に2～3時間以上ゲームをしている生徒が半数を超えました。その一方で、平日に全く本を読まない生徒も半数を超えました。読書や、ニュースや新聞に目を通すことは自分の視野を広げることになります。帰宅後の時間の過ごし方について、一度見直してほしいと思います。